



TITLE:

雑報

AUTHOR(S):

CITATION:

雑報. 地球 1925, 3(2): 313-323

ISSUE DATE:

1925-02-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/182818>

RIGHT:

○日本内地の大正十三年推計人口

統計局に於て推計したる大正十三年十月一日現在内地各府縣及び市別人口は左の如し。

(註)從來人口推計の方法は、郡市別に推計したる人口の和を以て全國人口と爲せるも、漸次事實と遠ざかり過大と爲るの虞あるに至りたるを以て、本年は先づ全國人口の總數を推計し之を從來の方法に依りて算出せる郡市別推計人口の和との差を、郡市別推計人口と前年推計人口との差に按分し以て各府縣郡市別人口を算出したり而して、郡市別人口推計に付ては、震災調査並に東京市勢調査の結果を參照したり(尙ほ推計方法及算式は大正十一年七月二十六日、同十一月一日及同十二年十月二十九日官報彙報欄統計の項並に本記備考參照)

總數		男		女	
全國	五九,一三六,九〇〇	二九,六三三,一〇〇	二九,五〇三,七〇〇		
市部	一一,八二二,一〇〇	六,一八七,七〇〇	五,六三三,五〇〇		
郡部	四七,三一四,八〇〇	二二,四四五,四〇〇	二二,八七〇,三〇〇		
北海道	二,八三二,一〇〇	一,四八七,二〇〇	一,三四四,九〇〇		
市部	六〇〇,二〇〇	三三七,七〇〇	二九二,六〇〇		
郡部	二,二三〇,九〇〇	一,一五九,六〇〇	一,一七一,三〇〇		
札幌市	一三三,一〇〇	六二,二〇〇	五九,九〇〇		

旭川市	七五,八〇〇	四一,七〇〇	三四,一〇〇
小樽市	二六,一〇〇	六一,七〇〇	五四,四〇〇
函館市	一七四,七〇〇	九一,二〇〇	八三,五〇〇
室蘭市	八二,二〇〇	四三,二〇〇	三八,〇〇〇
釧路市	五〇,三〇〇	二七,六〇〇	二三,七〇〇
青森縣	七九,〇〇〇	三九,七〇〇	三九,四〇〇
市部	八二,七〇〇	四〇,七〇〇	四二,〇〇〇
郡部	七〇八,三〇〇	三五六,三〇〇	三五二,〇〇〇
弘前市	三三,六〇〇	一六,〇〇〇	一七,六〇〇
青森市	四九,一〇〇	二四,七〇〇	二四,四〇〇
岩手縣	八二,二〇〇	四六,五〇〇	四四,七〇〇
市部	四六,九〇〇	二三,四〇〇	二三,五〇〇
盛岡市	八五,三〇〇	四一,五〇〇	四〇,二〇〇
盛岡市	四六,九〇〇	二三,四〇〇	二三,五〇〇
宮城縣	九二,〇〇〇	四九,九〇〇	四二,一〇〇
市部	一三,五〇〇	六九,〇〇〇	六二,五〇〇
仙台市	八五九,五〇〇	四二〇,六〇〇	四三九,九〇〇
秋田縣	一三,五〇〇	六九,〇〇〇	六二,五〇〇
市部	九三,八〇〇	四九,六〇〇	四四,二〇〇
秋田市	三六,三〇〇	二〇,〇〇〇	一八,三〇〇
山形縣	八九,五〇〇	四四,九〇〇	四四,六〇〇
市部	九六,四〇〇	四九,七〇〇	五〇,六〇〇
山形市	九七,〇〇〇	四七,九〇〇	四九,一〇〇

地 球

第三卷 第二號

三四 六二

郡部	九〇,一四〇〇	四四三,八〇〇	四五六,六〇〇	市部	二八,二〇〇	一三,九〇〇	一四,三〇〇
山形市	五,六〇〇	二六,四〇〇	二五,二〇〇	郡部	一,三〇六,一〇〇	六五,二〇〇	六九,五〇〇
米澤市	四四,四〇〇	二,五〇〇	三,九〇〇	川越市	二八,二〇〇	一三,九〇〇	一四,三〇〇
福島縣	一,四七,九〇〇	七九,六〇〇	七八,三〇〇	千葉縣	一,三七四,二〇〇	六七,六〇〇	七二,六〇〇
市部	一一,二七〇〇	五五,〇〇〇	五六,七〇〇	市部	三,四〇〇	一六,七〇〇	一七,七〇〇
郡部	一,三六,二〇〇	六五四,六〇〇	六七,六〇〇	郡部	一,三三九,八〇〇	六五四,九〇〇	六八四,九〇〇
福島市	三七,七〇〇	一八,二〇〇	一九,五〇〇	千葉市	三,四〇〇	一六,七〇〇	一七,七〇〇
若松市	四,一〇〇	二,四〇〇	一九,七〇〇	東京府	三,九八六,七〇〇	二,一〇八,七〇〇	一,八七八,〇〇〇
郡山市	三三,九〇〇	一五,四〇〇	一七,五〇〇	市部	一,九六四,一〇〇	一,〇七八,八〇〇	八八五,三〇〇
茨城縣	一,四二,一〇〇	六九四,九〇〇	七六,二〇〇	郡部	二,〇三三,六〇〇	一,〇三九,九〇〇	九九二,七〇〇
市部	四四,四〇〇	三三,六〇〇	三三,八〇〇	東京市	一,九一七,三〇八	一,〇五六,六五六	八〇〇,六五三
郡部	一,三七五,七〇〇	六七,二〇〇	七〇,三〇〇	八王子市	四六,八〇〇	三三,一〇〇	二四,七〇〇
水戸市	四四,四〇〇	三三,六〇〇	三三,八〇〇	神奈川縣	一,三〇七,六〇〇	六六,一〇〇	六九,五〇〇
栃木縣	一,一〇九,二〇〇	五四四,五〇〇	五六四,七〇〇	市部	五,四〇〇	二八二,〇〇〇	二四二,六〇〇
市部	一〇五,五〇〇	五三,〇〇〇	五三,五〇〇	郡部	七六三,〇〇〇	三九六,一〇〇	三六六,九〇〇
郡部	一,〇〇三,七〇〇	四九一,五〇〇	五二二,二〇〇	横濱市	三,九七,七〇〇	二〇七,〇〇〇	一八二,七〇〇
宇都宮市	七,一〇〇	三五,一〇〇	三五,九〇〇	横須賀市	八四,九〇〇	四九,九〇〇	三五,〇〇〇
足利市	三四,五〇〇	一七,九〇〇	一六,六〇〇	川崎市	五〇,〇〇〇	二五,一〇〇	二四,九〇〇
群馬縣	一,一五,一〇〇	五四三,二〇〇	五七二,〇〇〇	新潟縣	一,八二七,一〇〇	八九六,八〇〇	九三〇,三〇〇
市部	一五二,二〇〇	七〇,五〇〇	八二,七〇〇	市部	一,八二,三〇〇	八九,四〇〇	九二,九〇〇
郡部	九六,二〇〇	四七,二七〇	四九〇,三〇〇	新潟市	一,六四五,八〇〇	八〇七,四〇〇	八三七,四〇〇
前橋市	七〇,三〇〇	三一,〇〇〇	三九,三〇〇	長岡市	一〇五,九〇〇	五二,三〇〇	五三,六〇〇
高崎市	三九,五〇〇	一九,八〇〇	一九,七〇〇	高田市	三,六〇〇	一六,〇〇〇	一五,六〇〇
桐生市	四二,四〇〇	一九,七〇〇	二二,七〇〇				
埼玉縣	一,一七,四〇〇	六六七,五〇〇	七〇六,八〇〇				

富山縣	七四二,九〇〇	三六二,六〇〇	三七九,一三〇	市部	一〇五,九〇〇	四七,八〇〇	五八,一〇〇
市部	一〇九,〇〇〇	五三,八〇〇	五六,一〇〇	郡部	一〇六,六〇〇	五〇,七〇〇	四九,六〇〇
富山市	六三三,九〇〇	三三〇,八〇〇	三三三,一〇〇	岐阜市	七三,三〇〇	三三,九〇〇	三九,四〇〇
高岡市	六九,四〇〇	三三,五〇〇	三五九,〇〇〇	大垣市	三三,六〇〇	一三,九〇〇	一八,七〇〇
石川縣	三九,六〇〇	一九,三〇〇	二〇,三〇〇	靜岡縣	一,六五六,二〇〇	八三五,九〇〇	八二〇,三〇〇
市部	七六一,五〇〇	三七一,四〇〇	三九〇,一〇〇	市部	三六五,〇〇〇	二九,一〇〇	二七,四〇〇
郡部	一五〇,七〇〇	七三,七〇〇	七七,〇〇〇	郡部	一,四一九,七〇〇	七〇六,八〇〇	七二,九〇〇
金澤市	六〇〇,八〇〇	二九七,七〇〇	三三三,一〇〇	靜岡市	八四七,〇〇〇	四三,一〇〇	四一,六〇〇
福井縣	一五〇,七〇〇	七三,七〇〇	七七,〇〇〇	濱松市	九一,八〇〇	四五,四〇〇	四六,四〇〇
市部	六〇四,四〇〇	二九六,〇〇〇	三〇八,四〇〇	沼津市	三三,七〇〇	一六,一〇〇	一七,六〇〇
郡部	六二,一〇〇	二九,八〇〇	三二,三〇〇	清水市	二六,三〇〇	一四,五〇〇	一六,六〇〇
福井市	五四三,二〇〇	二六六,二〇〇	二七七,一〇〇	愛知縣	二,二二八,〇〇〇	一〇九,七〇〇	一一七,三〇〇
山梨縣	六二,一〇〇	二九,八〇〇	三三,〇〇〇	市部	八七〇,〇〇〇	四〇六,一〇〇	四〇,九〇〇
市部	六二,一〇〇	二九,八〇〇	三〇五,九〇〇	郡部	一,三九一,〇〇〇	六四六,六〇〇	七〇六,四〇〇
甲府市	五四九,八〇〇	二七五,六〇〇	二七四,二〇〇	名古屋市	六七〇,八〇〇	三三三,八〇〇	三七〇,〇〇〇
長野縣	六二,五〇〇	二九,八〇〇	三二,七〇〇	豊橋市	七七,三〇〇	三三,四〇〇	四一,九〇〇
市部	六二,五〇〇	二九,八〇〇	三二,七〇〇	岡崎市	四七,一〇〇	二三,五〇〇	二四,七〇〇
長野市	一,六四三,四〇〇	七九六,九〇〇	八四六,五〇〇	一宮市	三三,七〇〇	一四,四〇〇	一七,三〇〇
市部	一五二,七〇〇	七四九,〇〇〇	七六八,〇〇〇	三重縣	一〇九〇,四〇〇	五五〇,〇〇〇	五五五,四〇〇
郡部	一,四九一,七〇〇	七三三,〇〇〇	七六九,七〇〇	市部	一,三三三,〇〇〇	六三,一〇〇	七〇,二〇〇
長野市	六〇,五〇〇	三〇,六〇〇	二九,九〇〇	津市	九五七,一〇〇	四七,一,九〇〇	四六五,一〇〇
松本市	五八,〇〇〇	二八,七〇〇	二九,三〇〇	四日市	五五,六〇〇	二五,四〇〇	二九,二〇〇
上田市	三三,二〇〇	一五,六〇〇	一七,六〇〇	宇治山田市	三七,六〇〇	一七,八〇〇	一九,八〇〇
岐阜縣	一一二,二五〇	五五,五〇〇	五五七,〇〇〇		四一,一〇〇	一九,九〇〇	三二,二〇〇

滋賀縣

六五八、五〇〇

三七、九〇〇

三四〇、六〇〇

奈良市

四七、九〇〇

二四、五〇〇

三、四〇〇

市部

三、九〇〇

一五、四〇〇

一六、五〇〇

和歌山縣

七七八、四〇〇

三六六、二〇〇

三九、二〇〇

郡部

六六、六〇〇

三〇三、五〇〇

三四、一〇〇

市部

八七、一〇〇

四二、五〇〇

四四、六〇〇

大津市

三、九〇〇

一五、四〇〇

一六、五〇〇

郡部

六九、一〇〇

三四、三〇〇

三四七、六〇〇

京都府

一、三八八、九〇〇

七〇〇、七〇〇

六八八、二〇〇

和歌山市

八七、一〇〇

四二、五〇〇

四四、六〇〇

市部

六八〇、九〇〇

三四四、一〇〇

三三六、八〇〇

鳥取縣

四六四、四〇〇

三七、四〇〇

三七〇、〇〇〇

郡部

七〇八、〇〇〇

三五六、六〇〇

三五二、四〇〇

市部

三三、一〇〇

一五、六〇〇

一七、五〇〇

京都市

六八〇、九〇〇

三四四、一〇〇

三六、八〇〇

郡部

四三、一〇〇

二二、八〇〇

二九、五〇〇

大阪府

二、九九六、五〇〇

一、五六一、六〇〇

一、四三四、九〇〇

鳥根縣

三三、一〇〇

一五、六〇〇

一七、五〇〇

市部

一、五八八、〇〇〇

八三六、五〇〇

七二、五〇〇

市部

七〇五、八〇〇

三五〇、二〇〇

三五五、六〇〇

郡部

一、四二六、五〇〇

七五、一〇〇

七三、四〇〇

島根縣

三七、九〇〇

一八、八〇〇

一九、一〇〇

大阪市

一、四二二、五〇〇

七七三、二〇〇

六五八、二〇〇

郡部

六六七、九〇〇

三三、一〇〇

三六、五〇〇

堺市

九三、〇〇〇

四七、四〇〇

四五、六〇〇

松江市

三七、九〇〇

一八、八〇〇

一九、一〇〇

兵庫縣

三三、五〇〇

一五、八〇〇

一七、七〇〇

岡山縣

一二四六、〇〇〇

六六三、三〇〇

六九、七〇〇

市部

二、四九三、九〇〇

一二七〇、九〇〇

一、二三三、〇〇〇

市部

一二二五、〇〇〇

五五、一〇〇

五七、四〇〇

郡部

八五九、九〇〇

四五、一〇〇

四〇八、八〇〇

郡部

一二三、五〇〇

五六、二〇〇

五七、三〇〇

神戸市

一、六四〇、〇〇〇

八一九、八〇〇

八四二、〇〇〇

岡山市

一二、五〇〇

五五、一〇〇

五七、四〇〇

姫路市

七三、一〇〇

三六四、三〇〇

三四二、八〇〇

廣島縣

一、五六四、一〇〇

七九七、一〇〇

七六七、〇〇〇

尼崎市

四八、六〇〇

二四、六〇〇

二四、〇〇〇

市部

三六九、一〇〇

二〇六、二〇〇

一八、二九〇

明石市

四八、三〇〇

二四、九〇〇

二三、四〇〇

郡部

一一九五、〇〇〇

五九〇、九〇〇

六〇四、一〇〇

奈良縣

三五、九〇〇

一七、三〇〇

一八、六〇〇

廣島市

一七一、二〇〇

八八、二〇〇

八三、〇〇〇

市部

五七五、八〇〇

二八六、六〇〇

二八九、二〇〇

吳市

一五五、九〇〇

八七、六〇〇

六八、三〇〇

郡部

四七、九〇〇

二四、五〇〇

二六、四〇〇

尾道市

二七、三〇〇

一三、四〇〇

一三、九〇〇

福山市

五二七、九〇〇

二六、一〇〇

二六五、八〇〇

市部

三四、七〇〇

一七、〇〇〇

一七、七〇〇

山口縣	一〇、六五、六〇〇	五四、六〇〇	五三、〇〇〇	高知市	五四、一〇〇〇	二六、四〇〇	二七、七〇〇
市部	一三、二〇〇	六九、四〇〇	六二、八〇〇	福岡縣	二、四四一、四〇〇	一、三四九、〇〇〇	一、一九二、四〇〇
郡部	九三、二四〇〇	四六五、二〇〇	四六七、二〇〇	市部	六七、八〇〇	三五七、一〇〇	三三〇、七〇〇
下關市	八五、一〇〇	四四、〇〇〇	四一、〇〇〇	郡部	一、七六三、六〇〇	八九一、九〇〇	八七、七〇〇
宇部市	四八、一〇〇	二五、四〇〇	三三、七〇〇	福岡市	一三九、〇〇〇	六九、四〇〇	六九、六〇〇
德島縣	六〇、五〇〇	三七、一〇〇	三四、四〇〇	若松市	五八、五〇〇	三一、二〇〇	二七、三〇〇
市部	七二、四〇〇	三四、七〇〇	三七、七〇〇	八幡市	一六、〇〇〇	九四、七〇〇	七四、三〇〇
郡部	六八、一〇〇	三〇、三〇〇	三〇、五、七〇〇	久留米市	四九、一〇〇	三三、一〇〇	二六、〇〇〇
德島市	七二、四〇〇	三四、七〇〇	三七、七〇〇	大牟田市	七七、七〇〇	四〇、八〇〇	三六、九〇〇
香川縣	六二、九〇〇	三三、五〇〇	三九、四〇〇	小倉市	三五、三〇〇	一八、五〇〇	一六、八〇〇
市部	八五、八〇〇	四三、三〇〇	四三、五〇〇	門司市	九八、四〇〇	五三、二〇〇	四六、二〇〇
郡部	五八、七、一〇〇	二九一、二〇〇	二九五、九〇〇	戸畑市	四九、八〇〇	二六、二〇〇	三三、六〇〇
高松市	六三、七〇〇	三三、一〇〇	三三、五〇〇	佐賀縣	六六、四〇〇	三三、七〇〇	三四五、七〇〇
丸龜市	一三、一〇〇	一一、一〇〇	一一、〇〇〇	市部	四〇、九〇〇	一九、八〇〇	二一、一〇〇
愛媛縣	一〇、七六、〇〇〇	五五、二〇〇	五四九、八〇〇	郡部	六三、五〇〇	三〇、九〇〇	三三、六〇〇
市部	二六、九〇〇	六〇、三〇〇	六六、六〇〇	佐賀市	四〇、九〇〇	一九、八〇〇	二一、一〇〇
郡部	九五、一、一〇〇	四六七、九〇〇	四八三、二〇〇	長崎縣	一、二八六、五〇〇	六七、四〇〇	五七九、一〇〇
松山市	五七、〇〇〇	二六、四〇〇	二八、六〇〇	市部	二八六、三〇〇	二五〇、四〇〇	一五〇、九〇〇
今治市	三〇、六〇〇	一三、四〇〇	一七、二〇〇	郡部	九〇〇、二〇〇	四五七、〇〇〇	四四三、二〇〇
宇和島市	三九、三〇〇	一八、五〇〇	二〇、八〇〇	長崎市	一八七、六〇〇	九六、一〇〇	九一、五〇〇
高知縣	六六、九〇〇	三九、五〇〇	三四七、四〇〇	佐世保市	九八、七〇〇	五四、三〇〇	四四、四〇〇
市部	五四、一〇〇	二六、四〇〇	二七、七〇〇	熊本縣	一、二六一、六〇〇	六二六、七〇〇	六四四、九〇〇
郡部	六三、八〇〇	三三、一〇〇	三二九、七〇〇	市部	一三四、四〇〇	六八、七〇〇	六五、七〇〇

地球

郡部	一、二七、二〇〇	五八、〇〇〇	五七九、二〇〇
熊本市	一三、四〇〇	六、七〇〇	六五、七〇〇
大分縣	八七、四〇〇	四〇、三〇〇	四四四、三〇〇
市部	八五、六〇〇	四、一〇〇	四四、五〇〇
郡部	七六、九〇〇	三八九、二〇〇	三九九、八〇〇
大分市	五〇、二〇〇	二四、七〇〇	三五、五〇〇
別府市	三五、四〇〇	一六、四〇〇	一九、〇〇〇
宮崎縣	七〇、三〇〇	三五、一六〇	三四八、七〇〇
市部	六九、〇〇〇	三三、七〇〇	三五、三〇〇
郡部	六三、三〇〇	三七、九〇〇	三三、四〇〇
宮崎市	三九、〇〇〇	一九、一〇〇	一九、九〇〇
都城	三〇、〇〇〇	一四、六〇〇	一五、四〇〇
鹿兒島縣	一、四九六、三〇〇	七〇、二〇〇	七六六、一〇〇
市部	一一、五〇〇	五九、七〇〇	六二、八〇〇
郡部	一、三七四、八〇〇	六六、五〇〇	七二四、三〇〇
鹿兒島市	一一、五〇〇	五九、七〇〇	六二、八〇〇
沖繩縣	六五、二〇〇	二九、五〇〇	三二五、七〇〇
市部	八三、二〇〇	三七、六〇〇	四五、六〇〇
郡部	五三、〇〇〇	二五、九〇〇	二七〇、一〇〇
那覇市	五九、一〇〇	二六、五〇〇	三三、六〇〇
首里市	二四、一〇〇	一一、一〇〇	一三、〇〇〇

(備考)

一、東京市人口は昨年十月一日執行せる東京市勢調査の結果に

第三卷

第二號

三八

六六

依る概數なり。

二、郡、市部人口及市別人口は左の方法に依りて算出し更に之を全國人口の推計に依りて修正したり。

神奈川縣の人口は大正十二年十一月十五日現在の調査人口に其後の移動を參酌し従前通の増加率に依り十箇月半後の人口を算出せり。

神奈川縣以外の人口は大正十二年九月一日推計人口に震災に依る死亡、行衛不明其他の移動を參酌し従前通の増加率に依り一年一箇月後の人口を算出せり。

新に市制を施行したるため又は市町村の境域變更ありたる爲郡市の境域に變更を生じたるものに付ては各其新區域に依り増加率を算出して推計したり又市制第六條及第八十二條第三項の市に付ては各區毎に推計したり。

三、東京府市部計と内容と一致せざるは四捨五入の結果なり。

○横黒線の全通

大正十三年十一月十五日をもつて全通した横黒線は、東北本線黒澤尻驛と奥羽線横手驛とを連絡する本州横斷鐵道の一つで、延長約三十七哩半、この内黒澤尻大荒澤間十五哩餘は東線と稱し、横手大荒澤間二十二哩餘を西線と稱し、西線は大正六年九月起工、東線は同八月五日起工、東西兩線共一區間の工事竣成すると共に順次營業を開始し、昨年十月二十五日東線和賀仙人、大荒澤間の開業に次ぎ、十一月十五日西線陸中川尻大荒澤間の竣功に依り、茲に全く本線の開通を見るに至つたもので、起工以來七年有餘の歲月を閲し建設費總額

九百貳拾七萬餘圓を投じ完成されたものである。

本線工事施行中東線の第五和費川橋梁は洪水の災を蒙つた事一再ならず、井枠倒壊の厄に會ひ、又仙人峠を貫く延長四千七百六十六呎餘の仙人隧道は、本線路中最長のもので、黒澤尻口坑門附近の地質軟弱であつたが、最善の努力により幸ひに工事中崩壊の災厄を免れ得た。

沿線地方の物産を舉ぐれば薪炭、木材、馬匹及び金、銅、鐵等で、鷲合森、見立、平の松、卯根倉、長松、赤石、翁澤、土知等の鑛山がある。

本線路は山間僻陋の地域を通過し、名勝舊跡としては横川目驛附近の笠松、陸中川尻驛より五里を距る猿橋の辨天などの外特に觀覽すべきものがないけれども、沿線の風光は極めて明細であつて、就中和賀仙人、陸中川尻間の八哩は山巒溪流を歴し溪流奇巖に激するところ線路迂餘曲折し、車窓に映する山容水態の變化稱まじない。特に晩秋には滿山悉く霜に染み、五彩燦爛として錦繡を綴り美觀言ふべからざるものがある。尙陸中川尻附近にある湯川、湯本の温泉は、本鐵道沿線唯一の温泉場である。

本線の全通に伴ひ、交通上に及ぼす影響利益の點を擧げて見ると、仙臺弘前間において東北本線青森廻りに比し六哩六分、陸羽本線廻りに比し十四哩七分、仙臺秋田間においては陸羽本線廻りに比し十四哩七分、米澤盛岡間においては東北本線廻りに比し三哩八分、陸羽本線廻りに比し二十七哩三分を短縮する

ことが出来るから、前述の各驛附近及び其中間に在る各驛各支線においては交通上至大の恩恵を蒙るばかりでなく、本鐵道沿線より生ずる礦物、薪炭その他の物産の集散を圓滑敏速にし經濟上亨くる所の利益蓋し大なるものがあるであらう。

(鐵道省建設局調査)

○本邦在留支那人の狀態

大正十三年七月末現在における在留支那人は、總數一六、五二九人であつてその内舊居留地在留者五、七二五人、その以外の在留者一〇、八〇四人であつて、これを職業別に見ると大體左の通りである。

各種營業者三、八〇〇、公務員、學生、銀行、會社、店員その他の自由業を合せて二、五〇〇人、無職(大部分家族)四、三〇〇人、勞働者六、〇〇〇人であつて、勞働者は全在留者の三割五分に當つて居る。

次に支那人地理的分布の、狀況を示すと、兵庫縣の四、九四〇人を最多として、東京、大阪、神奈川、長崎の順序で、青森、富山の二縣を除き各廳府縣におよぶも百人以上のものは、東京、京都、大阪、神奈川、兵庫、長崎、千葉、愛知、廣島、福岡の十府縣で、さらに勞働者の百人以上のものは右のうち、東京、京都、大阪、神奈川、長崎、愛知の七府縣である。

支那人の勞働に關しては、明治三十二年七月勅令第三五號により、從來の居留地、雜居地外にあつては、行政官廳の許可を要することに制限せらるゝところであるが、前記勞働者數約六〇〇〇人中居留地雜居地に屬するもの一、四〇〇人、その以外

に屬するもの四、六〇〇人である。

居留地雜居地在留者 居留地雜居地の設置があつたのは、東京、大阪、横濱、神戸、長崎の五都市で、その在留支那人總數は五、七二五人、その職業は、各都市によつてそれ／＼特色がある、いま各地に共通し人員の比較的多數のものを掲げると、營業者は貿易商、裁縫業で、勞働者にあつては料理、理髮および裁縫従業者である。

居留地雜居地外在留者 居留地雜居地外在留支那人は、その數一〇、八〇四人内、各種營業者三、二五五人、學生九一六人、銀行、會社、商店員五〇四人、無職の家族その他一、六三一人、勞働者四、五九八人である。

營業者 各營業者中主なるものは、貿易商、料理店、理髮業、吳服行商等で殊に吳服行商の如きは全國に分布してその數一、二六六人を算し、全營業者の三分の一餘を占む、なほ傘、雜貨、賣藥、翡翠、支那扇等の行商も相當の數を示し、各種行商を通算すると一、七六四人で營業者の半數以上におよぶ。

これ等行商人の多くは親方を稱するものに率ゐられ、狹隘な家屋に多數共同生活をなし衛生上風紀上さかく問題を惹起する虞があり、しかも商賈が面白くないと直ちに自由勞働者に變する傾向がある。又近畿地方における理髮業者は他に比して著しく多數に上り、同地方同營業者はこれがために少くない影響を受けてゐる。

勞働者 居留地雜居地外勞働者數四、五九八人の分布狀況を

見ると、東京の一四、七三六、大阪九六六、兵庫四五八、愛知四六四、神奈川四二三、京都二九九、長崎一〇二人がその重なるもので、その他には百人以上に居るものがない、新潟、埼玉、栃木、福島の外七縣には全然その居住のないものがある。即ち現在支那人勞働者の活動地域は前記東京以下七府縣であるといつてよい。

業應より見れば、理髮業者の一、七七〇、料理従業者の一、三六五、土工仲仕人夫の九五五、洋服裁縫職の一五〇などがその重なるもので、その他はいづれも百名に充たない。しかして右のうち理髮、料理、および裁縫従業者の大部分は支那人營業者に使用され、主家に居住するものであるから、わが國勞働者と各需要先を異にして交渉稀薄なるも、土工、仲仕人夫、炭坑夫等はその勞働場所がわが國勞働者と共通であるから、その關係も直接であつて支那人勞働問題として最も主要な部分を占める。しかしその生活狀態は前記下級行商人と大差がない。

(社會局勞働課調査)

○本邦農産物の總價額

大正十年度の統計によれば全國の農産は總額約參拾貳億六千萬圓にして米麥は其七〇%に當る之を細別すれば

米

六二・〇一%

麥(大麥小麥)

八・〇八%

其他の食用作物

一〇・一三%

特用作物

三九・四%

果實 二・〇九%

綠肥作物 一・〇八%

苗木 〇・一一%

蘭 一二・五六%

則ち、米と蘭とが主なる農作物で、麥はこれについてゐるのであるが、内地米は近來内地の需要に不足するに爲めに、移入米に壓迫されて居る、そこで農業の大宗たる米作は尤も不利の状況に置かれ、やがて、農村疲弊の聲が高いのであるが、大體我國では米の消費が多すぎる、朝鮮の如き一人當りの年消費は僅に六斗一升八合であるのに、内地人は一石七升内外を消費する、農作を奨励し、雜食をすゝめることは目下の急務である。

○スエズ運河の掘下

從來スエズ運河通過船舶の最高吃水は三十一呎（九米四五）なりしが大正十四年一月一日より三十二呎に増加することに決定せり、されども開く所によれば一九二五年末までには運河の深水を三十六呎まで掘下げ、モルスタニア、オリンピック、又はマセスタック號等三萬五千噸級の船舶の交通に差支なからしめんとて折角工事を急ぎ居る由なり。

○印度の國勢調査

一九二一年に行はれた印度國勢調査は最近に至り漸く全部公表された、印度の總人口は三億一千八百九十四萬二千四百八十人で、内英領地の人口は其七割七分を占め二四七、〇〇三、二九三人で、諸藩邦の人口は七一、九三九一八七人即二割三分を占めてゐる、而して人口の増加率は十箇年前に比して一分二厘増に當る、總面積は百八十八萬五千三百

三十二平方哩で、從來は露西亞を除く歐洲に比較すると稱せられたるも、大戰後の歐洲と比較するに一寸困難である、之を北米合衆國と比較せば、面積は其約二分一で人口は其三倍に當る、印度中緬甸は最大の州で獨逸より小で佛國よりも大きい、しかし人口は佛國の三分の一しかゐない、合併州は伊太利と殆ど同大であるが人口は同國を凌駕し、孟買省は其廣さに於て、西班牙と大差なく、人口は西葡兩國を合したる數にひさしく、アッサムは最小州なるが英蘭及ウェールズよりも遙かに大きい、而し其人口は少くて瑞西に比すべきである、藩邦中ハイデラバッド及カシュミールは孰れも其面積大英王國に同じきも其人口は右二邦の人口を併せて大英王國の三分一を越ゆること多からず人口の平均密度は、一平方萬哩につき百七十七人で、英領印度は二百二十六人、藩邦では百〇一人の制である、人口の約三分一は平均の密度以下なる總面積の約三分二強の土地に住み、尙總面積の六分一の地域内に總人口の約半數を有し、其密度三百六十人に達する。

○山東の牛

山東省の産牛は海外殊に日本向輸出によりて最良と知らる、抑山東省は極東部及東南部一帯を除く外、土地概して平坦にして黃河流域の大平原を始め、西南部の原野は棉花、高粱、小麥、落花生等の農耕地なるが是等農地の民家飼牛を爲さざるものなく、二三頭乃至五六頭を所持せり、故に支那に於ても有數の産牛地と稱せらる、而して是等の牛の毎年の産出は、六十萬頭を越ゆべく、濟南に集散するものみにて毎

年三萬頭乃至五萬頭を産す、農耕に使用せらる、飼牛は、六七歳に達すれば仔牛と交換して買牛者に賣却する有様なれば、飼牛者も都合よく自から産牛數も年々増加せり、其著名の産地は萊州、曹州、濟南附近にして、孰れも濟南及青島を大集散市場となす、但し濟南に集る牛は、河南より來るもの相當の數あり、この集まりたる牛はすべて買牛者の手によりて青島に移送せらる。最近三年間膠濟線に由る青島移送頭數左の如し。

大正十年 三二、一八六。 大正十一年 二五、二一八。

大正十二年 三一、〇一五。

濟南より青島への移送牛は、右の如く例年三萬頭内外なるが大正九年には四萬四千頭に達せり、但し青島より日本向輸出數は、毎年六萬頭内外を算するが故に、濟南より移送の殘數三萬頭は、山東鐵道沿線又は青島附近よりの移送に係るものとす、但しこの方面に於て貨損問題起り膠濟鐵路輸送貨物に對し重税を課することとなり、昨年九月二十一日より實施せられしために、生牛輸出の本邦商人の打撃は極めて大也、かくて該問題は其他棉花の如き重要商品を始め通關上の大問題となり、まだ落着を見るに至らず、本年は恐らく從來の如き輸出數を示しがたかるべしといふ。

○蒙古牛

蒙古、察哈爾、綏遠地方一帯及山西省東北部より産出する牛を蒙古牛と稱し、分て西口牛(綏遠平地泉地方に出るもの)、北口牛(張家口又は多倫方面より出るもの)とす、蒙古當地方にて屠殺する牛の頭數は毎年五萬頭以上に達するも是が生

要用途は其皮革にありて、蒙古人若くは露西亞人用靴の原料となる外に、食用として天津北京地方へ移出せらる、もの毎年二千乃至三千頭にして其大部分は天津なる本邦人の買附に係るものとす、蓋し蒙古牛の肉質は放牧せる其儘のもの(俗に草地牛)は優良ならざるも、更に之に牧草以外の食料を與へて、若干時日間特に飼養せるものは優等にして山東肉に比して遜色なきにより、將來は此種蒙古牛が食用として廣く需要せらるゝに至らん、今蒙古牛と青島牛との各部比較を舉ぐれば左の如し。

蒙古牛

肉 放牧そのまゝのものは脂肪少けれど

毛色 全體に細長し

毛 黒又は斑點

角 長くして硬し

皮 雄大にして鋭角

其他 春に寄生虫の穴あり故に廉價也

張家口大境門外に毎年舊曆六月一日より牛馬羊豚類の市場開設せられ、毎日五六十頭乃至百五十頭の放牧牛賣買せられ盛況を呈す、食肉牛飼養者は多く酒造業者にして、毎年蒙古地方の放牧終る頃を待て人を放牧地に派して買出し、十月より五六月頃迄約八ヶ月間、自家庭に於て釀造の糟にて飼養し、肥大の後之を賣出すものなりといふ。

○濠洲羊毛と本邦綿

濠洲羊毛の出題は九月より小麥

青島牛

赤色

短し

茶黒又は斑

短く軟し

鈍角

價蒙古牛より高し

の出廻は十二月よりの見込なるに對し、本邦三船舶會社は濠洲歐洲間航路を開始する事を發表し、スエズを經るものと、パナマを經るものとを定め月一回の豫定を以て運輸に従事することとなり。右新航路に當る三會社は山下汽船、川崎汽船、國際汽船の三者にして從來極東濠洲間を約一ヶ月一回の割合にて海運に従事せるものなり。右は從來本航路に於ては郵船、商船及イースター・エンド・オーストラリア三會社の運賃協定以外に立ちてこれらの各會社に對し脅威たりしものとす。昨年八月第一着手として、ベルファスト丸(川崎)はシドニー、メルボルン、ブリスベーンにて積荷をなせる後、パナマ經由米國及歐洲大陸に向へり、スエズ線はブリスベーン、メルボルン、アデレード、フリーマントルを經て歐洲行をなすものとす。

○地理科本試驗問題(第四十一回)

一、奥羽地方の裏日本に就き

イ、其の地形圖を描き

ロ、其の地形の特色を説明せよ

二、日本、印度、シベリアに於ける全年の氣溫の變化を

イ、圖表(グラフ式)を以て示し

ロ、其の特色を説明せよ

三、西印度諸島の成因につきて説明せよ

四、海外貿易につきてイギリス國が他の諸國に比し特色とせる

諸項を擧げ之を説明せよ

五、アメリカ合衆國の産業地圖を考案し之を別紙白圖に記入せ

六、フィリッピン諸島の住民につきて記せ
七、左の地につきて知る所を記せ

イ、包頭

ロ、コンドル島 Pulo Condor

ハ、マリツア川 Mariza

ニ、ラリック列島、ラタック列島 Ralik, Rakak

ホ、アフリカ洲にある獨立國と其の首府との名

右四時間

○山崎博士よりの來信 此頃詐偽漢ありて、山崎直方著

最近産業地理集成なるものの新著廣告を地方の學校などに配り廻り居り之は小生の全然關知せざる所にて地方數多の小學教員は勿論小生の迷惑も不勘、此の情報を香川縣より聞知致候次第にて關西にては罹災者多からんと存候、願くは右著作は山崎の毫も關り知らざるものである由を一寸御吹聴下さるれば自他の爲め其幸福と奉存候。(大正十三年十二月十二日)

新刊紹介

○人類學及人種學上より見たる北東亞細亞

鳥居龍藏著定價參圓八拾錢大正十三年七月發行

本書は鳥居博士が大正八—十年に試みた北東亞細亞の調査旅